

IMIZU CITY UCHIKAWA

第1回 射水市内川情景条例等 策定検討委員会

趣 旨 説 明

令和8年8月 射水市

◆ HISTORY

内川周辺の歴史

内川周辺は、古くから北陸有数の湊町として栄えてきました。

室町時代

越中守護所が置かれ、将軍・足利義材が「放生津幕府」を開いた歴史ある地

江戸時代以降

北前船の寄港地・漁業のまちとして大いに栄え、1万3000人以上が暮らす

今に受け継がれる文化

13基の曳山と築山(ユネスコ無形文化遺産)は当時の豊かな経済力の賜物

北陸有数の
湊町・商都として繁栄

◆ CURRENT STATUS

現在の状況 — 人口の減少

かつて栄えた内川周辺の人口は、大きく減少しています。

内川周辺の人口

約6,800人

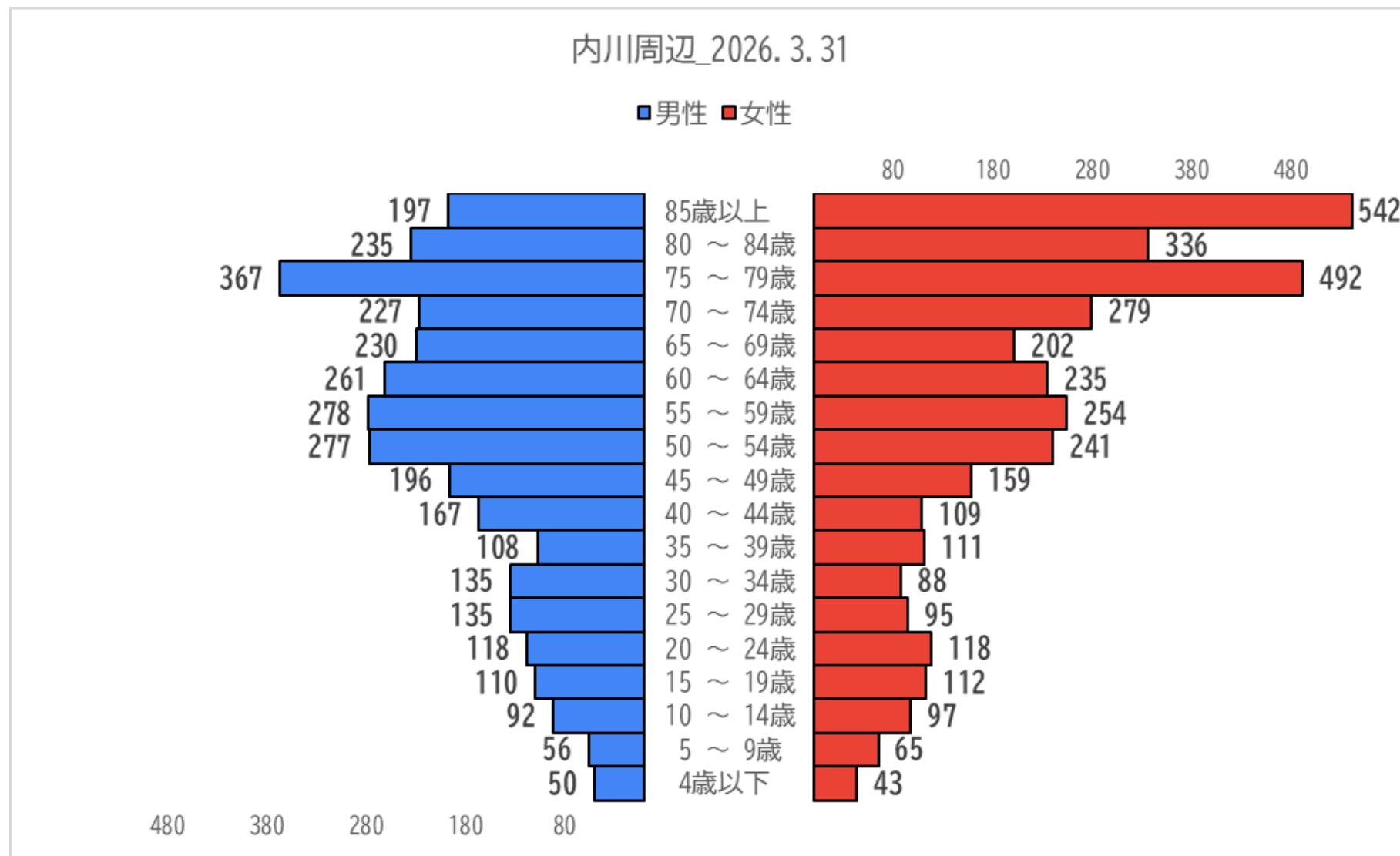
内川エリアの中心的な生活圏

内川周辺は、**かつての約5割**ほどの人口規模にまで減少

◆ AGE STRUCTURE

年齢構成の課題 —「逆三角形」

現在の内川周辺の年齢構成



▼

支え手世代・次世代が細い構造

このまま少子化が進むと…

人口はさらに減少し…

現在の半分程度に

かつてのピーク時の…

3割以下まで

※ 現状の人口動態が続いた場合の懸念

◆ IMPACTS

人口減少がもたらす様々な影響

今後、暮らし・経済・文化の様々な面に影響が及ぶ可能性があります。



地域経済の縮小

消費・生産・雇用の減少により、地域全体の経済活動がさらに縮小する



生活機能の低下

小学校・地元商店・医療機関の維持が困難になる



空き家・空き地

増加により、景観と治安の悪化を招く



地域コミュニティの機能低下

自治会をはじめ、地域を支える組織の担い手が減り、相互扶助の力が弱まる



伝統ある祭りの継承困難

曳山、獅子舞をはじめ、地域が誇る祭礼・文化の継承が難しくなる可能性

◆ BRIGHT SIGNS

明るい兆し — 内川の魅力に惹かれる人々

一方で、内川ならではの魅力に惹かれ、新たに移り住む方々も増えてつつあります。

ここにしかない、価値。

このエリアにしかない
景色・まちなみ・
暮らしの雰囲気
に魅了される人々

「内川の雰囲気や暮らし」そのものに価値を見出し、この地を選んでいる

01 若い世代の移住が増加
新しい暮らしの場として選ばれ始めている

02 空き家リノベーションで新規事業
古い建物に新たな命を吹き込む動きが広がる

03 情景そのものへの共感
利便性ではなく、地域固有の情景に価値を見出す

◆ NEW CHALLENGES

新たな課題 — 注目が集まることで生じる問題

注目が集まることによって、これまでにない新たな課題も生じています。

01

地域の暮らしのルールが未共有

地域の暮らしのルールが十分に共有されないまま、転入されるケースが増える可能性

02

建築に関するルールがほぼ存在しない

エリア内の建築を制御する仕組みが整っていない

03

情景にそぐわない建物の大量建設リスク

外部資本などによって、内川の景色や雰囲気にとぐわない建物が大量に建てられる可能性

今、行動を起こさなければ — 内川周辺の魅力は永遠に失われるかもしれない

◆ PROPOSAL

内川未来戦略会議からの提言

本条例策定の出発点は、「内川未来戦略会議」からの提言

STEP 01 議論の場

内川未来戦略会議 (令和6年度)

内川周辺エリアの魅力を、未来へ引き継ぐための議論を重ねる

STEP 02 報告書の提出とロードマップの作成

報告書の提出 (令和7年3月)

報告書を踏まえ、射水市が「内川未来戦略の推進に係る5か年ロードマップ」を公表
(令和7年6月)

STEP 03 条例策定の検討へ

策定検討委員会発足 (令和8年8月)

内外の有識者等による「内川情景条例等策定検討委員会」を設置

この会議の議論と提言が、**本条例策定の出発点**となっています。

◆ SCENE

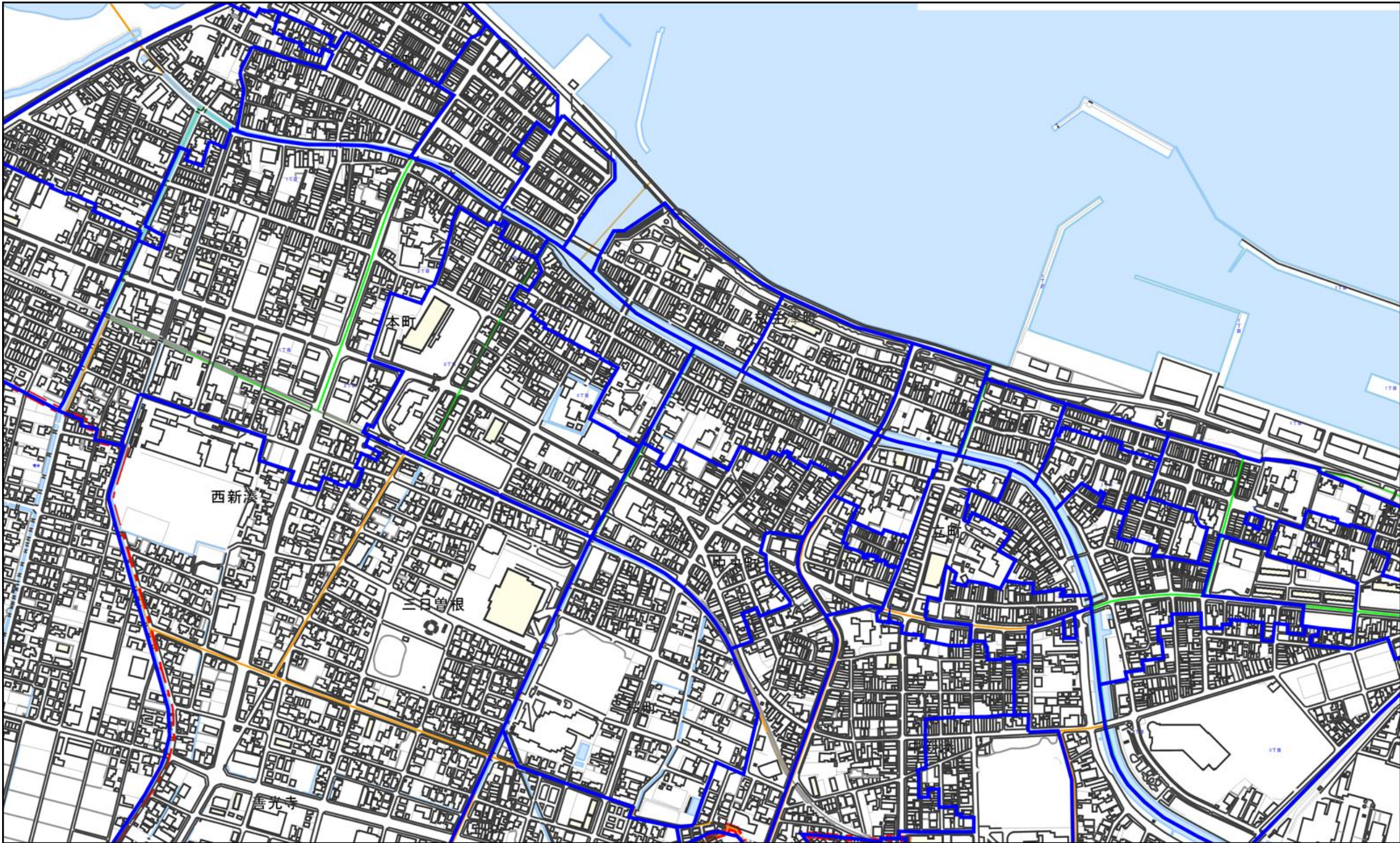
「情景」とは

用語	定義・意味	出典
景観	景観とは人間をとりまく環境のながめにほかならない。しかし、それは単なるながめではなく、環境に対する人間の評価と本質的なかわりがある。	中村良夫(東京工業大学名誉教授) 土木工学大系13、景観論、彰国社、1977年
生活景	生活の営みが色濃く滲みでた景観である。 すなわち、特筆されるような権力者、専門家、知識人ではなく、無名の生活者、職人や工匠たちの社会的な営為によって醸成された自生的な生活環境のながめである。	「生活景」 日本建築学会編(代表:後藤春彦(早稲田大学教授))、学芸出版社、2009年3月発行
情景	心にある感じを起こさせる光景や場面。	デジタル大辞泉
	① 感興とけしき。心のはたらきと自然の風景。 ② 人の心に何かを感じさせるような、自然の景色や、具体的な場面。	精選版 日本国語大辞典
	視覚的な印象を伴う風景や光景を指す言葉である。具体的には、自然の風景、都市の風景、人々の生活の様子など、目に映るさまざまな状況を表す。情景は、視覚的な要素だけでなく、その場所や状況が持つ雰囲気や感情をも含む。	実用日本語表現辞典

◆ TARGET AREA

想定している対象エリア

内川に面している
自治会



◆ ORDINANCE

「(仮称)内川情景条例」の策定

内川未来戦略会議からの報告を受け、射水市において本条例の策定を検討します。

条例の位置付け

内川周辺のかげがえのない魅力を、子どもたち・孫たちの世代へ引き継ぐための行動指針

※ 重要

決して観光客を呼び込むためのものではありません

◆ 条例の3つの役割

① 言語化・明文化

これまで守り続けてきた地域の価値を、言語化し、条例という形で明文化する

② 地域を守る「盾」

外から来る人々に、都合よく変えさせないための拠り所となるもの

③ 暮らしと誇り

今住んでいる皆様が安心して暮らし続け、誇りを持てるためのもの

◆ OUR GOALS

条例が目指すこと

本条例は、住民の皆様の暮らしを守り、次の世代へ引き継ぐための重要な選択肢です。



住民の暮らしを守り、地域の魅力を持続させるための —— 重要な選択肢

◆ SCHEDULE

取組スケジュール

まちの未来会議(住民参加型ワークショップ)のご意見を共有しながら検討を進めます。



検討の進捗に合わせて住民向け説明会やパブリックコメントなどを実施し、令和9年6月定例会での上程に向け取り組みます。

◆ CLOSING

内川の情景を守りつつ、希望を未来へつなげる

本日の会議が、
その大切な一歩と
なりますように。

委員の皆様と共に、実りある議論を重ねてまいります。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。